

Japan Water Agency  
水機構 ニュース

NEWS

利根川  
水系

●千葉用水総合管理所（千葉県）  
印旛沼開発50周年を記念した感謝祭を開催しました

江戸時代からの悲願であった印旛沼の洪水防衛と、計画的な水利用を目的とした「印旛沼開発事業」が昭和44年に竣工してから50年目の節目を迎えました。

前日までの雨があがって快晴の令和元年12月8日、地域の方々への感謝の意味を込めた手作りイベント「感謝祭」として開催しました。印旛沼、鹿島川両土地改良区、千葉県企業局各浄水場、JFE印旛沼浄水場などの関係利水者、関東農政局印旛沼二期農業水利事業所、国際ボランティア学生協会 (IVUSA) などの皆さまにもイベントにご協力いただきました。

来場者は500人を超え、特に「大和田機場 探検ツアー」と、餅米などの印旛沼の幸で作ったお雑煮が好評でした。また、記録映画上映や施設見学等を通じて、事業への理解を深められたと感じました。当日は服部友則・八千代市長と、西田三十五・佐倉市長のサプライズ来場もありました。

ご来場、ご協力をいただいた皆さま方には改めて感謝申し上げますとともに、職員一同、次の50年に向けてまた一歩ずつ歩んでまいります。



大和田機場ポンプ試運転の迫りに圧倒される観客



4回の探検ツアーには予想を上回る参加がありました

●世界かんがい施設遺産

見沼代用水が世界かんがい施設遺産に登録されました！

歴史的価値がある農業水利施設を登録・表彰する「世界かんがい施設遺産」に、行田市やさいたま市など埼玉県内17市町を潤している見沼代用水が選出されました。

江戸時代に整備され、現在まで300年近く利用されているその歴史的価値や、川底を用水路が抜け出る河川の立体交差（伏越）を形成するなどの高度な技術が評価されたもので、令和元年9月4日にインドネシアのバリで開催された「国際かんがい排水委員会 (ICID)」国際執行理事会で登録が決定されました。埼玉県内では初めての同遺産への登録で、機構の関連事業としては、入鹿池、牟呂・松原用水について3カ所目となりました。

見沼代用水は、水害防止と米の増産による江戸幕府の財政改善のため、8代将軍 徳川吉宗の命により、幕府の役人だった紀州（現在の和歌山県）出身の土木技術者の井沢弥惣兵衛為永が、1728年の着工から約半年で完成させました。明治時代以降、流域の農家が費用を出し合って管理を続け、機構が管理する利根川中流域の利根大堰で現在も取水し、県内農地の2割以上を占める埼玉県東部に広がる農地（1万ha超）に、農業用水を供給する基幹延長約80kmの用水路で、それまで水源にしていたかんがい用溜池（見沼溜井）に代わるものとして名付けられました。

過去と現在の見沼代用水（重要構造物）  
見沼代用水元壱（利根川からの取水口）



見沼代用水元壱鳥瞰図（1880年）

〔明治年間元壱樋管伏替図〕

埼玉県文書館収蔵 見沼代用水土地改良区文書No.100より）



見沼代用水取水地点（現代）

水資源機構の仲間が受賞！

1月29日

第11回全国河川・ダム管理技術検討会

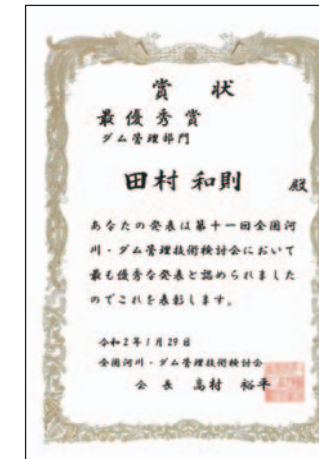
この検討会は、国土交通省河川環境課が主催し、河川・ダム管理の現場において創意工夫された取組み等の事例を相互共有し、今後の効率的で効果的な業務の遂行に役立てることを目的としています。

ダム管理部門（最優秀賞）

題名 「ダム防災操作能力向上!実践型シミュレータの運用」

発表者 総合技術センター 情報グループ 田村 和則

発表内容 水資源機構が新たに開発したダム操作訓練シミュレータの機能と効果について発表。シミュレータは、パソコン画面に臨場感ある操作パネルを再現し、短時間の訓練で高度なダム防災操作を習熟できるものです。



水資源機構では、既に2ダムでシミュレーターを供用し、令和2年度までにさらに6ダムで構築する予定です。シミュレーターを活用したダム防災操作の研修や訓練を開催しており、関係機関の方にもご参加頂いています。

広報誌「水とともに」  
2020年度読者のモニター募集

水資源機構では、広報誌「水とともに」の誌面づくりに貴重なご意見をいただくため、2020年度読者モニターを、次のように募集します。

募集要件

年4回、広報誌をご覧ください、そのアンケートにご協力いただける方

モニター期間

2020年夏号～2021年春号

募集人数

30名程度（応募者多数の場合は抽選とします。）

応募方法

①お名前（ふりがな） ②性別 ③郵便番号・ご住所 ④年齢 ⑤ご職業 ⑥お電話番号  
を記載の上、官製ハガキもしくはEメールにて、ご応募ください。

応募郵送先

〒330-6008 さいたま市中央区新都心11-2  
水資源機構総務部広報課（広報誌担当）あて

Eメール

water\_koho@water.go.jp

応募締切

2020年4月10日（金） 消印有効

発表

発送をもって替えさせていただきます。

その他

- ご提供いただいた個人情報については、本件に関するものにのみ使用するものであり、厳重に取り扱うことはもとより、本人の許可なく開示・提供いたしません。
- 読者モニターを対象とする水資源機構の施設見学会などを企画する予定です。